様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １８ 日現在

機関番号：３２６６３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ００７５８

研究課題名（和文）カタカナ語と和製英語の影響分析に基づいた大学生英語学習者の英語ライティング力養成

研究課題名（英文）An Approach to Developing English Writing Proficiency for Japanese University Students: An Analysis of Foreign Language Influence on L1 and L2

研究代表者
阿久津　純恵（Akutsu, Sumie）

東洋大学・福祉社会デザイン学部・准教授

研究者番号：２０４６００２４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本語母語話者である大学生英語学習者の英語ライティング力養成のために、英語由来のカタカナ語・和製英語を中心とした語彙を活用し、適切な英語表現を学習させる教育方法の開発を目指した。主に、カタカナ語・和製英語の意味の混乱が、負の影響の要因の一つとなっていることを検証し、それぞれの意味や発音の相違を確認させる指導実践により、英語語彙学習に応用するスキルとして導入できることを調査・分析を通して明らかにした。学習者の母語を活かし、カタカナ語・和製英語を英語学習に役立つ既存の知識として意識させることで、日本語と英語の言語・文化的差異を意識させるライティング教育方法を提案することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、日本語を母語とする英語学習者の英語ライティング力養成のために、カタカナ語・和製英語を活用する指導方法の提案を目指し、英語由来のカタカナ語・和製英語が英語学習に与えている影響について調査・分析を行った。日本社会において増加傾向にあるカタカナ語・和製英語を、言語学習への影響という観点から分類し、英語学習者の言語使用状況や言語意識に関する調査を量的・質的に分析することで、英語教育への応用の可能性と有効性について検討した。実際の教育現場における調査・分析結果から得られた知見を、教育実践に具体的に応用していく枠組みとして整理し、日英両言語を活かした教育アプローチとして提案することができた。

研究成果の概要（英文）：This research aims to investigate the potential benefits of Katakana loanwords in English Language Teaching in order to develop the writing proficiency of Japanese learners of English. Focusing on English loanwords prevailing in Japanese society and increasing in significance, English writing and questionnaire data were collected and analyzed in terms of loanword usage to extract some positive and negative feelings about loanwords and their effects on the study of English vocabulary. The study discusses that there are benefits to having a wider range of loanword vocabulary knowledge, while learners of English are not necessarily aware of these benefits as they apply to English language learning. The outcomes indicate that raising students' awareness of loanwords has pedagogical and motivational benefits for language learning and teaching by discussing how English loanwords can be a useful learning tool for Japanese learners of English to improve their writing skills.

研究分野：外国語教育

キーワード：カタカナ語　和製英語　英語教育　日本語教育

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景
本研究は、日本語を母語とする英語学習者の英語ライティング力養成のために、日本語と英語の言語・文化的差異を意識させるライティング教育方法を考案することを目的としてはじまった。「英語らしい英語」の妨げとなっている母語である日本語が英語に与える影響について、カタカナ語・和製英語を中心とした語彙の混乱が要因の一つとなっていることを検証し、カタカナ語・和製英語の由来や意味を理解させ、適切な英語表現を学習させることができる教育方法の開発を目指した。
　日本の大学英語教育において、コミュニケーション能力の養成を目指したコミュニカティブアプローチの導入以来、できる限り母語である日本語の使用を排除する傾向の教育方法が主流とされているが（Cook, 2010）、第二言語習得において、言語学習・言語教授を支援する重要かつ不可欠なツールとして母語の役割が見直されている（Witte et al., 2009）。さらに、日本の英語教育においても積極的に取り入れられている Common European Framework of Reference for Languages（CEFR）のなかで、複言語主義における言語運用能力が注目されてきている。日本語と英語の言語的・文化的差異が要因となって生じている誤用や不自然な英語表現には、どのような傾向や特徴が顕在するのか、カタカナ語・和製英語を分析の中心におき、日本語話者である学習者の英語語彙の誤用傾向や特徴を明らかにし、実際の英語教育の現場で応用することができる具体的・効果的なアプローチの構築を目標とした。

２．研究の目的
本研究の目的は、日本語を母語とする英語学習者の適切な英語表現力を養成するために、カタカナ語や和製英語を中心に日本語と英語の言語・文化的差異を意識させ、母語を活用した英語ライティング力養成を目指す教育方法を提案することであり、以下の 2 つを目的として実施した。
（１）日本語を母語とする英語学習者である大学生の日本語と英語のライティング課題をパラレルコーパス化し、カタカナ語・和製英語の使用に注目して分析を行うことによって、英語学習者の日本語力・英語力の実態・関連性・問題点を明らかにすること。
（２）日本語母語話者である英語学習者が、日本語と英語の言語・文化的差異に対する意識を高め、カタカナ語・和製英語が妨げている英語らしい英語表現とその要因を理解し、適切な英語表現を習得することができる英語ライティング教育方法を開発すること。

３．研究の方法
本研究では、研究目的に応じた課題を段階的に遂行することで、日本語を母語とする学習者のカタカナ語・和製英語の使用実態を明らかにし、カタカナ語・和製英語に関わる問題点の検証結果を基に、英語らしい英語による適切な英語表現力養成のための教育方法の開発を目指した。
　まず、英語学習者の産出する英語にみられる母語の影響分析から、カタカナ語・和製英語の使用状況を考察し、英語学習に与える影響を整理した上で、カタカナ語・和製英語の分類を行った。さらに、英語学習者のカタカナ語・和製英語に関する意識調査をもとに、日本語を母語とする英語学習者が、カタカナ語・和製英語からどのような影響を受けているのかを考察し、英語らしい英語表現を妨げている要因の分析を行った。日本語教育におけるカタカナ語・和製英語の指導方法との参照作業を通し、適切な英語表現・語彙習得を可能にするための大学英語ライティング教育方法を検討した。

４．研究成果
本研究においては、日本語母語話者である大学生のライティング力育成に関する新たな知見を得ること、その英語教育への応用の可能性を探ることを目的とし、カタカナ語や和製英語を活かした教育アプローチについて、その有効性について検討した。さらに、日本語教育におけるカタカナ語・和製英語の取り扱いや指導方法の実態と比較することで、具体的教育方法や改善点を考察した。外国語教育学とコーパス言語学を主たる枠組みとした調査・分析の成果は、以下の 5 点にまとめられる。

（１）カタカナ語・和製英語分類
文化庁が継続的に実施している「国語に関する世論調査」においても、カタカナ語の使用は、日本社会のあらゆる分野で増加傾向にあり、言語使用のみならず、社会活動や経済活動に重要な影響力を持つ現象ともなっていることが報告されている（国立国語研究所 2018）。英語教育においては、カタカナ語や和製英語に関して、英語学習者の、認知・理解・使用状況や誤用傾向が多く報告されている（河内 2019; Daulton, 2007）。特に、英語から日本語に導入される際の「音声」、「意味」、「短縮」を中心に起こる変化を中心に分類し、カタカナ語を英語教育に活用する可能性や具体的な教育方法と、さらにその留意点について論じられている（e.g., Uchida, 2001）。日本語教育においても、カタカナ外来語の学習上の困難点として、「発音のズレ」、「表記のゆれ」、「意味のズレ」、「和製英語」、「縮約語または短縮語」、「混種語」、「動詞化・ナ形容詞化」、

「非外来語のカタカナ表記」、「和語・漢語・外来語の類語」をあげ、カタカナ語が学習の弊害となる原因が指摘されている（望月 2012）。和製英語については、英語の誤用を引き起こす「負の影響」として取り上げられることが多く、より実践的で適切な指導が課題となっているのが現状である（Oshima, 2003; Norman, 2012）。

主に、「発音」、「意味」、「文法」の観点から、カタカナ語・和製英語の負の影響が多く指摘されているが、英語学習者の既知の英語語彙としてカタカナ語・和製英語を導入することで、学生の語彙力を効率よく向上させる可能性についても、さまざまな教育的取り組みとともに報告されている（Nation, 2003; Rogers, Webb, & Nakata, 2015）。日本語母語話者である英語学習者を対象とし、特に以下の4つの分類を中心として、カタカナ語・和製英語を分類し、英語教育への積極的かつ適切な導入を検討する価値があることが考察された（表1）。

表1　カタカナ語・和製英語分類例

分類	カタカナ語	和製英語
意味のずれ / pseudo-English	クレーム / claim	ナイーブ / naive
発音のずれ / phonological change	イメージ / image	ユーモア / humor
短縮形 / shortening	サプリ / supplement	リストラ / restructuring
縮約語 / shortening & combination	エアコン / air-conditioner	フリマ / flea market

カタカナ語・和製英語に関する先行研究や言語教育分野における調査、関連する辞書・事典を参照し、英語学習により密接に関連する分類をもとに、学生のライティングおよびアンケート分析の枠組みを整えることができた。

（2）英語学習者日英ライティングデータおよびインタビューデータ分析

カタカナ語・和製英語が要因となっている特徴的英語表現を観察し、英語ライティング教育に活用する方法を検討するために、日本語を母語とする大学生の日英ライティングデータを収集し、量的・質的に分析した。

ライティングデータの分析からは、日本語において高頻度で使用されているカタカナ語の使用頻度が高いが、日本語と英語が対応しやすい「直接釈用語 / direct borrowing」の使用が多く、共起表現においても、母語で使用されているカタカナ語の組み合わせが頻度高く使用されている傾向が考察された。例えば、コーパス検索ツール「Sketch Engine」を用い、学習者が産出する日英ライティング英語の中から「コミュニケーション / communication」を高頻度語彙として抽出し、communication と skill の組み合わせが、高頻度の共起表現として観察された（図 1）。

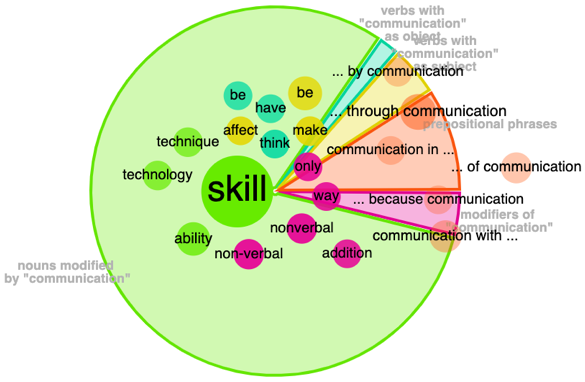

図 1　communication の Word Sketch

また、コンコーダンス機能で、communication skills の使用例を考察すると、学習者に共通する誤用傾向が観察された（図 2）。

図 2　コンコーダンスによる communication 検索結果

さらに、誤用を文法的に分類すると、日本語母語話者に特徴的な主語と述語の関係に関わる誤用傾向が明らかとなり、動詞や副詞句による具体的な正用例を提示することができた（表 2）。

表 2　communication skills の誤用例と正用例

誤用例	正用例
・communication skills can understand people …	・Using communication skills, we can understand people …
・communication skills can get a relationship of trust …	・Communication skills can help us build a relationship of trust …

学習者の産出する英語の誤用傾向だけではなく、カタカナ語・和製英語に主眼をおき、母語の影響分析を行うことで、母語である日本語との関連性をより具体的に考察することができた。

（3）英語学習者カタカナ語・和製英語アンケート分析

日本語においては、英語由来の新しいカタカナ語が使用され、素早く定着していく様子が多く観察されており、英語をもとにした和製英語も数多く造語され、広く使用されている。母語である日本語の言語環境が複雑に変化している状況にあって、日本語母語話者である大学生英語学習者は、カタカナ語・和製英語をどのように捉えているのか調査し、英語力育成に活用する可能性について検討するために、2022 年度・2023年度にアンケートを実施した。

アンケート調査結果から、日本語で使用されている英語由来のカタカナ語に対する認識度は高いが、必ずしも英語力向上に有用であるとは認知されておらず、英語力が高いほど、カタカナ語と英語力の関係性により懐疑的になっている傾向が明らかとなり、また日本語で使用されている英語由来の和製英語に対する認知度は高いが、和製英語を英語学習に活用するかどうかについては肯定的・否定的な意見が混在している様子が観察された（表3）。

表3　カタカナ語・和製英語に対するコメント

	肯定的なコメント	否定的なコメント
意味	・英単語の記憶に役立つ ・英語の単語だけでなく、文章の意味の推測に役立つ	・単語の意味の違いから、英単語学習において、記憶の妨げになる ・英単語の意味やニュアンスを誤って学習してしまう ・単語の意味が異なると、英語学習に ・おいて誤用の原因となる ・日本語でカタカナ語の意味を説明できなくなってしまう
発音	・英語の発音の推測に役立つ ・英単語のスペルの推測に役立つ	・誤った発音を覚えてしまう ・英単語としての記憶を妨げる
学習	・英語に親しみをもつことができる ・日本語と英語におけるカタカナ語使用に対して意識が高まる ・日本語と英語のカタカナ語の意味の違いに興味を持つ	・単語のニュアンスの違いから、英語でのコミュニケーション能力を高める妨げになる ・正しい英語がわからなくなる

英語由来のカタカナ語・和製英語が一種の共通知識・共通語として使用されている日本社会において、英語学習者のカタカナ語・和製英語に対する意識を高め、既知の英語語彙としてカタカナ語への言語意識を高める指導を行う教育方法には検討の余地があることが示唆された。

（4）英語教育・日本語教育におけるカタカナ語・和製英語指導分析

日本語教育におけるカタカナ語学習・指導の課題を考察し、英語学習者の語彙学習におけるカタカナ語知識の活用について精査した。さらに、日本語母語話者である大学生を対象に実施されたカタカナ語意識調査の分析結果を中心に、英語教育におけるカタカナ語の有用性や可能性と比較・検討した。

日本語教育においては、入門期のカタカナ文字指導後、カタカナ語学習に焦点が当てられることが少なく、中上級レベルの学習者も、カタカナ語に苦手意識があることがあり、日本語学習者へのカタカナ語指導が不十分であることが指摘されている。この問題は、漢字を中心とした文字習得が重要視され、語彙習得は優先順位が低くなる日本語教育の指導上の傾向に起因していると考えられる。日本語教育で使用されている教科書分析により、現代日本語において著しく増加しているカタカナ語は、教科書での取り扱いが限定的であるため、学習者に、カタカナ語を体系的に学習していく方策が示されていない状況であることが明らかとなった。日本語において、カタカナ語は高頻度・広範囲で使用される語群とされる「基本語彙」へ進出していることが指摘されており、日本語の語彙としてカタカナ語をどのように指導していくかについて、さらなる検討が望まれる状況となっている（e.g., 金 2012）。

英語教育においては、多くの学習者が、カタカナ語の有用性を認めているが、カタカナ語は必ずしも英語力の向上に直接的に寄与するものではないと客観的に捉えている様子が考察さ

れ、今後の指導の課題として、特に「意味」、「発音」、「言語意識」の3点について、より積極的なアプローチが必要であることが明らかとなった。日本語におけるカタカナ語・和製英語の量的変化を考慮すると、日本語と英語の差異や共通性に対する意識を高める教育方法の一つとして、カタカナ語・和製英語の知識を活用し、英語学習を向上させる促進効果には有用性が認められる。

日本語教育・英語教育の比較から、語彙学習・指導において、カタカナ語と英語の「意味」における類似点・相違点を確認し、派生語・共起表現を導入しながら適切な語彙使用を導く指導の必要性が示唆された。特に、英語教育においては、カタカナ語と英語の「発音」の相違についても指導が求められているが、学習者の既知の語彙知識としてカタカナ語を指導に取り入れることで「言語意識」を高め、英語学習へのモチベーションと自信を培う可能性の高まりが期待できることが分かった。

（5）カタカナ語・和製英語を中心とした英語ライティング指導教材

カタカナ語・和製英語の使用を中心に、誤用の要因や共通する傾向を考察し、教育活動実践への応用を検討した。ライティング分析やアンケート調査分析結果から、カタカナ語・和製英語に着目し、言語意識や言語学習への興味・関心を育成する教育的取り組みには有用性があることが考察された。また、英語ライティング指導において、日本語と英語の相違点を明らかにした上で、各語彙の定義を明確にし、正用・誤用を学習させることで、学生の語彙力をより効率的に向上させる可能性が示唆され、具体的な指導方法として、使用頻度の高いカタカナ語・和製英語について、適切な英語表現を学習するための指導案を整理した（表 4）。

表 4　カタカナ語・和製英語の指導案例

カタカナ語 和製英語	英語	例文
クレーム claim	claim [v] ↓ complain [v]	The product claims that it can make you lose weight without dieting. ○ Neighbors complained to the police about the dogs barking. ✖ Neighbors claimed to the police about the dogs barking.
マンション mansion	mansion [n] ↓ apartment [n]	He spends every summer at his eleven-bedroom mansion in Hawaii. 〇 She lives in a small apartment. ✖ She lives in a small apart.

母語である日本語との関連性と影響について、具体例を通して観察することで、カタカナ語・和製英語に関連する特徴的な誤用傾向を明らかにし、英語学習者の語彙習得を困難にしている要因を考察することができた。日本語母語話者である大学生のライティング力育成のための英語表現教育方法として、カタカナ語・和製英語を英語ライティング教育実践に応用するための枠組みを提案することができた。日英ライティング教育促進を目指し、英語教育・日本語教育に応用するために、カタカナ語・和製英語の分類に基づいた指導用教材を取りまとめる予定である。

＜引用文献＞

河内千栄子（2019）「大学生の外来語意識: 外来語親密度や英語語彙サイズとの関係」『久留米大学外国語教育研究所紀要』第 26 号 47-62.

金愛蘭（2012）「日本語の攻防－語彙：日本語の基本語彙に入り込む外来語－」『日本語学』31(3)，78-91.

国立国語研究所（2018）『平成 30 年度「国語に関する世論調査」の結果の概要』国立国語研究所.

望月通子（2012）「基本語化を考慮したカタカナ外来語の学習と教材開発－その振り返りと新たな開発に向けて－」『関西大学外国語学部紀要』 第 6 号 1-16.

Cook, G. (2010). *Translation in language teaching*. Oxford University Press.

Daulton, F. (2007). *Japan's built-in lexicon of English-based loanwords*. Multilingual Matters.

Nation, I.S.P. (2003). The role of the first language in foreign language learning. *Asian EFL Journal* 2003, 1-8.

Norman, J. (2012). Japanese university student awareness of waseieigo. In A. Stewart & N. Sonda (Eds.), *JALT 2011 Conference Proceedings*, 442-454.

Oshima, K. (2003). An overview of gairaigo studies: Implications for English education. *Educational Studies* (45), 151-158.

Rogers, J., Webb, S., & Nakata, T. (2015). Do the cognacy characteristics of loanwords make them more easily learned than noncognates? *Language Teaching Research*, 19(1), 9-27.

Uchida, E. (2001). *The use of cognate inferencing strategies by Japanese learners of English*. Ph.D. Dissertation, University of Essex.

Witte. et. al. (Eds.). (2009). *Translation in second language learning and teaching*. Peter Lang.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計8件（うち査読付論文　5件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　6件）

１．著者名 片瀬紅実子　阿久津純恵	４．巻 35
２．論文標題 大学生のカタカナ語の知識・使用状況と英語学習におけるカタカナ語に対する意識調査	５．発行年 2023年
３．雑誌名 神田外語大学紀要	６．最初と最後の頁 153-169
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Sumie Akutsu	４．巻 1
２．論文標題 Utilizing English Loanwords In Japanese as a Means of Improving English Skills	５．発行年 2023年
３．雑誌名 RELC Conference Anthology	６．最初と最後の頁 41-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Sumie Akutsu	４．巻 18
２．論文標題 A Lexical Analysis of the Near Synonyms	５．発行年 2023年
３．雑誌名 The Journal of Human Life Design	６．最初と最後の頁 5-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 小木曽左枝子	４．巻
２．論文標題 カタカナ語学習の観点から見た初級・中級教科書の分析	５．発行年 2023年
３．雑誌名 Proceedings: The International Symposium on Japanese Language Education：Rediscovering Japanese	６．最初と最後の頁 91-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 片瀬紅実子　阿久津純恵	4．巻 22
2．論文標題 日本語を母語とする大学生の和製英語と英語学習に対する意識調査	5．発行年 2024年
3．雑誌名 秀明大学紀要	6．最初と最後の頁 27-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 小木曽左枝子　阿久津純恵	4．巻
2．論文標題 日本語教育における効果的なカタカナ語指導のための基礎研究	5．発行年 2023年
3．雑誌名 CAJLE2023 Proceedings	6．最初と最後の頁 125-134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Sumie Akutsu	4．巻
2．論文標題 Raising Language Awareness with Near-Synonyms in English and their English Loanword Equivalences	5．発行年 2023年
3．雑誌名 Thailand TESOL Conference Proceedings 2023	6．最初と最後の頁 53-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Sumie Akutsu	4．巻
2．論文標題 The Use of University Students’ English Essays and Reflection Comments to Provide More Effective Feedback	5．発行年 2023年
3．雑誌名 Proceedings of the 20th AsiaTEFL-68th TEFLIN-5th iNELTAL Conference	6．最初と最後の頁 697-707
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計18件（うち招待講演　0件／うち国際学会　18件）

1．発表者名 Sumie Akutsu
2．発表標題 The Use of University Students’ English Essays and Reflection Comments to Provide More Effective Feedback
3．学会等名 AsiaTEFL-TEFLIN-iNELTAL 2022 Conference（国際学会）
4．発表年 2022年

1．発表者名 Sumie Akutsu, Kumiko Katase
2．発表標題 University Students’ Awareness Level of English Loanword Usage: English Writing and Questionnaire-Based Data Analysis
3．学会等名 The 61st JACET International Convention（国際学会）
4．発表年 2022年

1．発表者名 Sumie Akutsu
2．発表標題 A Study of University Students’ Awareness Level of English Loanword Usage: Questionnaire-Based Analysis
3．学会等名 The 30th MELTA International Conference（国際学会）
4．発表年 2022年

1．発表者名 Sumie Akutsu
2．発表標題 A Study of the Near Synonyms in English and their English Loanword Equivalences
3．学会等名 The 42nd Thailand TESOL International Conference 2023（国際学会）
4．発表年 2023年

１．発表者名 Sumie Akutsu
２．発表標題 The Use of a Bilingual Essay Corpus to Develop Intercultural Communicative Competence: A Case Study
３．学会等名 The 19th AsiaTEFL International Conference（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Sumie Akutsu
２．発表標題 Raising Awareness of English Loanword Use to Aid in Vocabulary Learning
３．学会等名 The 18th Annual CamTESOL Conference（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Sumie Akutsu
２．発表標題 Utilizing English Loanwords in Japanese as a Means of Improving English Skills
３．学会等名 The 56th RELC International Conference（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 小木曽左枝子
２．発表標題 カタカナ語学習の観点から見た初級・中級教科書の分析
３．学会等名 The International Symposium on Japanese Language Education（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 小木曽左枝子
２．発表標題 中級日本語学習者へのカタカナ語の指導
３．学会等名 Practicing Japan - 35 years of Japanese Studies in Poznan and Krakow（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 Sumie Akutsu
２．発表標題 Corpus-based Feedback on Students’ English Writing
３．学会等名 The 55th RELC International Conference（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 Sumie Akutsu
２．発表標題 The Compilation of a Bilingual Essay Corpus to Enhance Students’ Writing Skills in English
３．学会等名 The 17th Annual CamTESOL（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 小木曽左枝子　柏木美和子
２．発表標題 中級日本語教科書における単語リストの英語対訳の役割：カタカナ語の分析
３．学会等名 第24回英国日本語教育学会年次大会（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 小木曽左枝子　阿久津純恵
２．発表標題 日本語教育における効果的なカタカナ語指導のための基礎研究
３．学会等名 CAJLE2023年次大会（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 小木曽左枝子　阿久津純恵
２．発表標題 日本語学習者へのカタカナ語の指導ー日本語教科書における課題と英語教育からの示唆
３．学会等名 第25回BATJ年次大会（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Kumiko Katase, Sumie Akutsu
２．発表標題 A Survey of University Students' Knowledge and Attitudes Towards Loanwords
３．学会等名 October Grand Forum 2023（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Sumie Akutsu
２．発表標題 A Corpus-based Analysis of Welfare, Well-being, and Wellness: English Usage and English Loanword Usage in Japanese
３．学会等名 ESPP 2023（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Sumie Akutsu
２．発表標題 An Analysis of the Correlation between the Awareness Level of English Loanwords and Proficiency Levels of English
３．学会等名 AILA 2024（国際学会）
４．発表年 2024年

１．発表者名 Sumie Akutsu, Kumiko Katase
２．発表標題 Factor Analysis of University Students\' Loanword Knowledge and Motivation in English Language Learning
３．学会等名 AILA 2024（国際学会）
４．発表年 2024年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	小木曽　左枝子 (Ogiso Saeko) (30761548)	立命館大学・グローバル教養学部・准教授 (34315)	
研究分担者	片瀬　紅実子 (Katase Kumiko) (70511525)	秀明大学・英語情報マネジメント学部・講師 (32510)	

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	柏木　美和子 (Kashiwagi Miwako)	立命館大学 (34315)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関